

令和6年度第2回台東区障害者福祉施策推進協議会 議事録

開催日時		令和7年3月24日（月曜日） 18:30～20:00
開催場所		台東区役所 10階 1001会議室
出席者	委員	小川委員長、佐々木副委員長、桑原委員、川又委員、松田委員、星野委員、伊藤（恵）委員、中村委員、飯塚委員、角田委員、折山委員、中墓委員、山下委員、見城委員、野坂委員、伊藤（玲）委員、河井委員、石野委員、長岡委員、山口委員、鈴木委員、前田委員、水田委員、佐々木委員
	その他	[障害福祉課] 庶務担当係長2名、総合相談担当係長2名、給付担当係長 [松が谷福祉会館] 松が谷福祉会館長、庶務担当係長2名、障害者サービス担当係長、こども療育担当係長2名、社会参加援助担当係長、自立支援担当係長 [(仮称)北上野二丁目福祉施設整備担当] 区民部参事（(仮称)北上野二丁目福祉施設整備担当）、(仮称)北上野二丁目福祉施設整備担当課長
	事務局	[障害福祉課] 障害福祉課長、庶務担当係長、職員2名 [保健予防課] 精神保健担当係長2名
欠席者		城所委員、田崎委員、
傍聴		0名
議題		1 開会 2 議事 （1）区の障害福祉施策等について ①千束保健福祉センター及びほおずきの家の大規模改修について ②東京都台東区身体障害者生活ホームフロム千束の指定管理者候補者の選定結果について ③夕方支援に関するアンケートの結果について ④(仮称)北上野二丁目福祉施設における障害者支援及び児童発達支援の運営体制について

	(2) その他 3 閉会	
配布資料	資料1	千束保健福祉センター及びほおずきの家の大規模改修について
	資料1-2	図面
	資料2	東京都台東区身体障害者生活ホームフロム千束の指定管理者候補者の選定結果について
	資料3	夕方支援に関するアンケートの結果について
	資料3別紙	夕方支援に関するアンケート結果
	資料4	(仮称) 北上野二丁目福祉施設における障害者支援及び児童発達支援の運営体制について
	資料4別紙1	各事業等について
	資料4別紙2	(仮称) 北上野二丁目福祉施設基本設計(概要版)

— 議 事 内 容 —

(1) 区の障害福祉施策等について

①千束保健福祉センター及びほおずきの家の大規模改修について …………… 資料1

委員

資料1-2図面の5ページ目、職員住宅とあるが、宿直室ではなく実際に職員が住むのか。

障害福祉課

区職員の防災住宅。元の施設と同様に、改修後もそのまま残ることとなる。

②東京都台東区身体障害者生活ホームフロム千束の指定管理者候補者の

選定結果について…………… 資料2

委員長

資料2の4ページ「(2) 指定管理者候補者の主な提案内容」について「計画的な人員増を図るため、法人内に「採用チーム」を組織」とあり、安定運営のための人員確保は第一の課題と思う。指定管理者の特筆すべきところがあれば説明願いたい。

委員 就職フェアの他、九州・北海道などにも出張し大学訪問を実施している。民間の人材紹介会社を利用しながら、人材確保に努めている。

③夕方支援に関するアンケートの結果について …………… 資料3

委員 夕方支援を必要と思っている層は、放課後等デイサービスが開始になってからの年齢層が主かと思う。成人になるとそれがなくなるため、親の就労継続が難しくなることから必要とされていると察する。

事業所向けに、支援の延長としてアンケートを取っているところが気になる。既存の事業の延長は求めている。事業所の立場としては、人手不足で現状の事業継続も難しいが、区は従来の事業所に夕方支援を実施させようとしているように思う。

また、単独でのトワイライト事業は想定しているのか。

障害福祉課 アンケート調査の意図は、数年前から話が出ていることから、ニーズを確認するため。

夕食・入浴の必要性などもアンケート内容にあるが、預かりを希望する方はどの程度まで支援を必要としているかを確認したく、項目に入れたもの。

利用者の立場としての必要性の有無の他、事業者の立場として何が難しいかを伺うものでもあった。

単独でのトワイライト事業については、計画上、(仮称)北上野二丁目福祉施設での実施としているところだが、他で計画されていることはない。

ただし夕方支援の必要性は認識しているため、区としてどのような対応ができるか、事業者に協力を求める場合にはどのような課題があるのか、研究するための第一歩として今回のアンケートを実施した。

委員長 委員はアンケートについて要望を出したようだが、どのような要望か、またアンケートに反映されたか伺いたい。

委員 調査方法について、二次元コードを読み込むものだったが、それに対応できない保護者が多く、紙ベースの検討を進言した。

また、配布先について確認した。需要を感じているのは若い年齢層のため、学校にも配布されるのかを確認し、実際に配布されたことが分かった。

障害福祉課 委員の指摘を受け、事業所には紙回答が可能となるよう追加連絡を行った。

委員 アンケートがどう議論され生かされるのか気になる。

子が放課後等デイサービスの恩恵を受けてきている。

自身は事業所の事情も知っていく中で、従来の事業所であと2時間延長ができるものではないと感じているため、それを親世代に広報する必要がある。

	今まで通り放課後等デイサービスと同じように見てくれることを、トワイライトサービスだと思い込む状況はたやすく起こると思う。 今後の進め方の中で、親世代の思い込みを解く工夫は必要。
障害福祉課	実態調査も含め、利用者・事業者双方の意見を聞いていきたい。 ご意見でいただいた通り、事業所側の状況を利用者に知ってもらうことは非常に大事な視点と考える。
委員	アンケート量について。親同士の話の中では、項目が多く回答しなかったという意見もあった。初回は少なくして、回収率を上げることに焦点を当てた方が良かったのではないかなと思う。今後参考にしていきたい。 放課後等デイサービスがあって当たり前となっている現在の高等部2・3年生辺りの世代の親の多くは「夕方支援ができるから良かった」と思っている。その辺りの説明は丁寧に行うべきと思う。
障害福祉課	項目量については、次年度に実態調査を実施するため、思案している。 アンケートの回収率を上げる工夫は、今後同様アンケートを行う際は検討していきたい。また、今回のアンケートによって事業実施を期待されてしまう点は、アンケートの趣旨に、検討のきっかけとしたい旨を記載しているが、今後検討を進める際には周知の工夫をしっかりと行いたい。
副委員長	前回協議からアンケートについて、今回の報告を興味深く読ませてもらった。回収率が低い理由や、意図と反した期待値の高さへの対応が必要であることなど、様々な切り口の意見が出てひとつの足掛かりになったのではないかな。 ヒアリングや実態調査を行うとのことなので、実態に即したサービスを検討していくために、またこの場で知恵を出していけたらと期待している。
委員長	先ほど事務局から令和7年度に実施する実態調査について言及があったが、障害福祉計画のためのもので良いかな。
障害福祉課	お見込みのとおり。
委員長	今回の議題に関連するような項目を想定しているのか、新たな項目を設けて深堀するような調査の予定か。
障害福祉課	夕方支援について直接的な調査ではない。ただし、障害児の保護者に対するアンケートがあるため、そちらを分析していきたいと考えている。
委員長	事業者へのヒアリングにてより一層把握する予定かなと思うため、継続検討をお願いしたい。

④(仮称)北上野二丁目福祉施設における障害者支援及び児童発達支援の

運営体制について……………資料3

委員長	資料4別紙2の10ページ「7.災害対策」の避難所機能について、受入人数等にある特別養護老人ホームの再編によって減少する避難スペース以下の記載、収容人数は結果的に増減どちらになるのか。
松が谷福祉会館	特別養護老人ホームの再編で減少するスペースの分を補う設計となっているため、現状を維持できる状態となっている。
委員長	新たにそのスペースができたということではなく、相殺されるイメージか。
松が谷福祉会館	お見込みのとおり。
委員	視覚障害者向けの取り組みについて、点字ブロックは一概に良いとは思っていない。誘導シートというものがあり、タイルとは違う感触だが、凹凸がなく車いすなどの通行の妨げにならない。そういうものは検討されているのか。
(仮称)北上野二丁目福祉施設整備担当(以下「北上野担当」と表記)	以前別会議にて誘導シートについてのご意見をいただいたことを承知している。誘導シートがどういうものかを確認するとともに、場所・位置についても検討を進めたいと考えている。
委員	資料4の「(4)各事業の運営体制」にある事業は、それぞれどのフロアで運営されるか知りたい。
松が谷福祉会館	資料4別紙1のとおり。
委員	承知した。この施設で行われるトワイライトサービスは、現在松が谷福祉会館で実施している放課後等デイサービスと被っていると考えている人は多いと思う。今資料を確認するとフロアが違うため、別事業であると理解できた。この委託の事業所についてはどのような事業を考えているか。
松が谷福祉会館	夕方支援アンケートの結果等を踏まえ、障害者の対象範囲等を検討中であり、その結果によって委託先が絞られてくるものと考えている。

委員	他の委託事業についても、事業内容が固まってから委託先を検討するというとか。
松が谷福祉会館	トワイライトサービスに関しては検討部分が多いため、選定できていない状況だが、他事業については大きな変更がないという認識の元、すでに区として事業者と接触はしている。
委員	資料4別紙2の10ページ「7. 災害対策」について、以前くらしの部会において災害時に必要な物資のリストを作成し、自立支援協議会へ提出した。 今後の備蓄品の参考に活用して欲しい。障害別の聴覚過敏の方などもいるため、障害別のゾーニングも検討して欲しい。
松が谷福祉会館	備蓄品の一覧を提供いただいたことは確認しているため、それを含めて検討する。また、様々な特性に対応できるよう、避難所の場所は複数用意できるよう検討を進めている。
委員	資料4別紙2の7ページにて、6階部分が若者支援となっているが、元々この施設自体は0歳～39歳の何らかを抱えた人が誰でも来て良い場所というコンセプトで計画されたはず。この6階にもクローズとオープンのエリア分けがあり、他の方も使って交流できる場か否かが公開されないと、結局各階に閉じた活動になってしまうように思う。なんでも混ぜれば良いということではないが、生きづらさを感じている若者が、自分を知っている支援者以外と交流を持って社会の面白さを知ることは、大きな一歩であると思う。その機会を創出できるようなフロアになると良い。
北上野担当	6階に若者支援の機能は集約しているが、クローズエリアは配慮が必要な利用者のためのセキュリティラインを計画している。オープンエリアについては、運動室と地域交流スペースは一般向けの貸出を検討している。施設全体を見ると、6階フロア以外に屋上広場、5階のコミュニティラウンジ・共用テラス、1階のインクルーシブひろば・カフェスペースも、どなたも利用ができるスペースとして計画している。 そうしたスペースを有効活用しながら、交流が生まれるよう運用の中で工夫しながら検討していきたい。
委員	資料4別紙2の7ページ、7階の調理室は、どの事業に向けたスペースか。昼食を目的としたものか。
松が谷福祉会館	障害者デイサービスの昼食、放課後等デイサービス等の昼食（夏休みとか）を想定して設置。

委員	そこが確定してからの委託事業者の選定か。
松が谷福祉会館	調理は別途調理業者への委託を考えている。
委員長	若者支援や交流の場については、重要なスペースと考える。若者サポートステーション等、既存の事業を使うのではなく区単独事業での運営か。
北上野担当	クローズエリアの執務室・活動室はひきこもり支援の利用となり、現在の子育て・若者支援課が継続して事業者に委託する。 オープンエリアについては、現在の計画上、民間委託を検討中。
委員長	オープンエリアや屋上など、インクルーシブを意図したスペースとして考えられており、これまでの施設の概念よりも一歩進んだ新しい時代に即したものになっているように思う。委託事業者が魅力ある運営ができることを期待する。